北の独裁体制に警戒怠れぬ

マレーシア政府が同国の空港で殺害された男性について、北朝鮮の金正恩（キム・ジョンウン）委員長の異母兄、金正男（キム・ジョンナム）氏と確認したと表明した。搭乗手続き前に襲われ、毒物で暗殺されたとみられる。

韓国の情報機関は、正恩氏が五年前から正男氏の殺害を指示していたとし、北朝鮮が事件に関与した可能性が濃厚とみている。事実であれば、独裁色を強める正恩体制の恐怖政治の実態が、改めて浮き彫りになったことになる。

正男氏は故金正日（キム・ジョンイル）総書記の長男だ。かつて後継者と目されたこともあるが、２００１年に偽造旅券で日本に入国しようとして発覚。父の怒りを買い、後継者争いから脱落した。近年は主に東南アジアや中国を拠点に暮らしていたようだ。

正恩氏による権力継承後は政治的発言も控えており、北朝鮮の統治体制に脅威を与える存在ではなかったとの見方が根強い。

むしろ、権力に執着する正恩氏の「偏執狂的な性格」が背景にあるというのが韓国の情報機関の見立てだ。現に正恩氏は権力を握って以降、後見人でナンバー２とされた叔父の張成沢（チャン・ソンテク）氏を処刑するなど、側近らを次々と粛清してきた。

また北朝鮮がかねて、ビルマ（現在のシャンマ―）訪問中の韓国閣僚らが爆死したラングーン事件のほか、大韓航空機爆発事件、日本人拉致事件など、国際テロや無法行為を繰り返してきた経緯も忘れてはなるまい。

正男氏殺害の背景、北朝鮮工作員の関与の有無など不透明な部分はなお多い。マレーシア当局の捜査の行方を見守る必要があるが、時代錯誤っともいえる特異な独裁国家が北東アジアに存在するという現実は改めて認識すべきだろう。

しかも、北朝鮮は核兵器やミサイル開発を着々と進めている。日米韓や中国など周辺国は、その暴走を歯止めをかけるうえでも北朝鮮の脅威の深刻さを共有し、警戒を強めていく必要がある。